

受験番号

2022年度

神戸国際中学校 A-I 選考

国 語

(2022年1月15日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

ヒトが類人猿から進化するきっかけとなったのが、まっすぐに立って歩くことと手で道具を使ったこと、それに火をaカ^ンリする能力を備えたことであつたとすれば、文明が成立し、それがbハ^ッテンする※契機^{けいき}となつたのは文字の発明だつた、といつても言いすぎではないでしょう。人はだれでも、自分の言語をもっています。たとえ言語をつかさどる身体的機能やcキ^カンになにかの障害があつて、日常生活でことばをうまく話すことができない人にも、もつて生まれた①母語^{ぼご}はあります。だからこそその人は好きな本や雑誌を読んだり、あるいは友だちに手紙を書くことができるのです。

A ことばというものは、もともとノドの声帯が空気をふるわせて発生した音声の連続ですから、口から発せられた次の瞬間にはもう消滅してしまい、テープレコーダーのような機械でも使わない限り、それを保存することはできません。また人間はどんなに大きな声を出しても、その声が届く範囲にはかならずdゲ^ンカイがあります。それはメガフォンやマイクフォンを使つても、やはり同じことです。口から発せられることばだけでは、声が届かないほど遠いところにいる人になにかを伝えることができません。B 人類は、文字が発明されるまでの長い間、人と人が直接に顔をあわせる場合、あるいは声が届く範囲内で、さらに発せられた音声をリアルタイムで聞ける場合にしか、おたがいのコミュニケーションがとれないという状況にありました。

ここに②文字の大きな役割があります。文字とはある特定の言語を書き表すために開発された符号システムであり、これを使うことによつて、口から発せられ、瞬間的に消えてしまふ音声によることばを、「記録」という形で、目に見えるものに定着することができました。こうして記録されたことばは、その文字に関する約束ごとを知っている人ならば、記録された内容を読むことで、そこに書かれている情報や知識を共有することが可能です。

C ありがたいことには、文字が記録された素材はほとんどの場合、それほどかさばることがありません。ビルの壁面や山の岩肌などに記された文章、D 大きな石碑^{せきい}というようなケースでもない限り、記録を遠いところへ運ぶことも困難ではありませんでした。だからこそ文字は、人類の文明を※伝播^{でんぱ}させる乗り物として機能することとなつたのです。世界の古代文明はほとんどの場合、独自の文字をもっており、それを使つて大量の記録を残してきました。

文字は、同時代において③空間を飛びこえることができる乗り物であるだけでなく、さらには④それを時間軸にそつて運行することも可能でした。記録された文字が伝承^{でんしょう}されれば知識を後世に伝えることができずし、逆に後世の歴史家たちは、古代の遺跡などから発見された文字を読むことによつて、過去の時代の詳しい状況を知ることができます。文字こそは、人類の歴史におけるもつとも偉大な発明であつたといつてよいでしょう。

人間が話す言語がいったいどれくらいあるのか、その数を正確に計算することは非常に難しいことですが、ある言語学者の統計によれば、これまで存在した言語は全部で約七〇〇〇種類くらいで、現在の地球上

で使われているものだけに限れば、だいたい三〇〇種類くらいの言語があると考えられます(これには異説もたくさんあります)。しかしこれらの言語を表記するための文字となると、その数はぐっと少なくて、だいたい四〇〇種類くらいと推定されています。

このように文字の種類が言語の数にくらべて十分の一くらいしかないということには、⑤ももちろん理由があります。

(阿辻哲次 『漢字のはなし』)

※契機：変化・発展をおこすきっかけ。

※伝播：広い範囲に伝わること。

問1 |線 a↘d のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 | A | D | に入る言葉として最も適切なものを次のア〜カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あるいは イ むしろ ウ しかし
エ さらに オ つまり カ だから

問3 |線①「母語」とありますが、これはどういうものですか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問4 |線②「文字の大きな役割」とはなんのことですか。四十字以内で答えなさい。

問5 |線③「空間を飛びこえることができる」のはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問6 |線④「それを時間軸にそって運行する」とありますが、その例として適切でないものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 創業当時に書かれた秘伝のスープのレシピを使って、ラーメンを作る。

イ エジプトの古代文字を解読して、当時の人々の暮らしや考え方を解明する。

ウ 亡くなった父親の日記を読んで、父親が抱いていた自分への思いを理解する。

エ 歴史上の偉人について書かれたレポートを読んで、偉人の生き方や思想を学ぶ。

問7 |線⑤「もちろん理由があります」とありますが、本文ではこの後、二つの理由が説明されます。次の文章A、Bはそれぞれその理由の具体的な例が書かれたものです。その理由とはどういうことですか。文章を参考にそれぞれ「言語」「文字」という言葉を使って答えなさい。

A ペルー南部のクスコ盆地を中心に、十五世紀から十六世紀初めまで栄えたインカ帝国の文化は、きわめて華麗かつ高度に展開されたものでした。しかしインカの人々は文字をまったく使いませんでした。彼らは文字の代わりに「結繩」(繩を結ぶこと)でさまざまなことを記録する方法を使って、多くの記録を残しました。

B 西ヨーロッパに位置する国々では、英語をはじめとしてフランス語、ドイツ語、オランダ語、イタリア語それにスペイン語などが使われ、それはもちろんそれぞれ異なった言語ですが、しかしそれらを表記するための文字は、日本で「アルファベット」、あるいは「ローマ字」と呼んで

いるラテン文字ただ一種類だけです。

問8 本文の内容として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 立って歩いて道具を使ったことや、文字の発明が、ヒトが類人猿から進化するきっかけとなった。

イ 人類は文字が発明されるまで、テープレコーダーのような機械を使つて、ことばを保存していた。

ウ 現代の歴史家は、古代の遺跡に遺された文字を読むことで、過去の詳しい状況を解明している。

エ これまでには約三千もの言語が存在したが、文字はだいたい四百種類ほどと推定されている。

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

紀子は小学校を卒業したばかりの小学六年生である。親友の春子は、紀子ともう一人の親友のクー子とは違い、私立の中学校に進学する。その三人が日帰りの卒業旅行に行ったその帰りの場面である。

帰りの道のりは行きよりもずっと長かった。上りの※内房線快速電車で千葉へ戻り、今度こそ一番線の黄色い電車に乗ると、※往路ではあれほど速く思えた国鉄も、さらに速い特別快速を体験した後ではやけにと

んくさく感じられる。ラッシュアワーの車内でどうにか二十分を凌いだ私たちは、なじみの駅に降りたとき、自転車で来たことをどんなに悔やんだことだろう。

クー子、春子、私、と一列になって自転車を走らせた黄昏時。①雲のひだが巧みな夕映えのフリルを描く空の下、下り坂や砂利道に差しかかるたびに、前を行く二人の背中にはわたしから遠ざかったり近づいたりをくりかえした。

「ほんじゃ、また」

夕風に耳が A しびれた頃、ようやく昔ながらの民家が建ち並ぶ町に到着した。

まずは一丁目の角でクー子が列を外れた。

「じゃ、紀ちゃん、入学式で会おうね」

「うん」

「春子も、また遊ぼう。私立の中学だったってそんなに遠くじゃないし、引越すわけでもないんだし、またいつでも会えるよ」

「ほんとだね」

春子が笑顔を返すと、クー子は「さらばじゃ」と腰を持ち上げ、よいしよよいしよと急な坂道を上りつめていった。

②二人きりになると同時にあたりの薄闇が深まり、ペダルを漕ぐ足が一層重くなった。四丁目の春子の家まであとわずか。六丁目の町はずれに住む私は、いつも最後まで残されるはめになる。

「じゃ」

瞬く間に分かれ道へさしかかり、春子がハンドルを傾けると、私はとつさにブレーキをかけて地面に足をついた。

ふりむくと春子も自転車を停めていた。

「じゃ、紀ちゃん、またね」

「ん。またね」

またね、と言いいいながら私たちがその「また」がいつ来るのか知らない。朝になったら会えるわけでも、月曜日が来たら会えるわけでも、春休みが明けたら会えるわけでもない。

「またいつでも遊べるよね。私立の中学だったって、そんなに遠くじゃないんだから。引越すわけでもないんだから」

心の内側が言葉にならず、さっきのクー子の台詞をそのままくりかえすと、春子は小さくうなずいて、それから「あの……」と張りつめた顔でささやいた。

「あのね、紀ちゃん。あたし……あたしが私立の中学に行くの、※真くんが行くって言ったからじゃないから。お父さんやお母さんと相談して、自分でもいろいろ考えて、それで決めたの。時々後悔もするけど、でも、自分で決めたの」

柔らかくなつた春子の瞳の奥で、持ち前の強い意志が今も静かに光っている。

③わたしはその光を吸いこむように見つめ、こつくりとうなずいた。

「うん。春子っばい」

④春子の表情が崩れた。

「ありがとう」

それから長い年月が流れて、私たちがもつと大きくなり、分刻みに

B 変わる自分たちの機嫌にふりまわされることもなくなった頃、別れとはこんなにもさびしいだけじゃなく、もつと抑制よくせいのきいた、加工さ

れた虚むなしさや切なさにすりかわっていた。どんなにつらい別れでもいつかは乗りきれるとわかっている虚しさ。決して忘れないと約束した相手

もいつかは忘れると知っている切なさ。多くの※別離べつりを経るごとに、人はその瞬間よりもむしろ遠い未来を見据すえて別れを痛むようになる。

けれど、⑤このときはまだちがった。十二歳の私はこの一瞬、自分の立っている今だけに集中し、何の混じりけもないさびしさだけに砕くだけて散りそうだった。

「手紙書く」

「あたしも。電話する」

「わたしも」

「ばいばい、春子。※トリと仲良くね」

「紀ちゃんも、お姉ちゃんの※家庭教師の先生と仲良くね」

春子の後ろ姿が闇に吞のまれて消えると、私はきゅつと口許くちもとを踏んぱり、自転車のサドルへ跨またがった。走り出す前に頭をそらして瞳を水平にすると、

⑥春宵しゅんしやうの空にちらつきはじめた星がぼやけて倍に映った。

⑦私立の中学なんて月より遠くに決まっている、と思った。

(森絵都 『永遠の出口』)

※内房線…千葉県を走る鉄道。

※往路…行き帰りの、行き。

※真くん…春子と同じ私立中学に進学する同級生。紀子も恋心を寄せ

ていたが、旅行中に春子と恋仲にあることがわかる。

※別離…別れ。

※トリ…真くんのこと。

※家庭教師の先生：春子に気を遣った紀子が、今はトリではなく姉の

家庭教師を好きだと嘘をついた。

問1 A・Bに入る言葉として最も適切なものを次のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア かんかん イ からから ウ じんじん
エ こんこん オ ころころ カ くらくら

問2 ー線①「雲のひだが巧みな夕映えのフリルを描く空の下」とありますが、この時の空はどのような様子ですか。考えて説明しなさい。

問3 ー線②「二人きりになると同時にあたりの薄闇が深まり、ペダルを漕ぐ足が一層重くなった。」とありますが、これは紀子がどのような気持ちになったからですか。五十字以内で答えなさい。

問4 ー線③「わたしはその光を吸いこむように見つめ」とありますが、ここで使われている表現技法として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 直喩 ウ 暗喩 エ 倒置法

問5 ー線④「春子の表情が崩れた」について、

(1) 「春子の表情」はどのようなものだったのですか。本文中から六字で抜き出しなさい。

(2) この時の春子の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 緊張 イ 怒り ウ 安心 エ 悲しみ

問6 ー線⑤「このときはまだちがった」とありますが、なにがどう

「ちがった」のですか。その説明として書かれた次の文章の空欄に合うように本文中から（a）は四字、（b）は十九字、

（c）は十三字でそれぞれ抜き出しなさい。

大人になると（a）よりも（b）が、このときは（c）を感じていたということ。

問7 ー線⑥「春宵の空にちらつきはじめた星がぼやけて倍に映った」とありますが、これはなぜですか。答えなさい。

問8 ー⑦「私立の中学なんて月より遠くに決まっている」とありますが、この時の紀子の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 春子が通う中学校が、遠く離れたところにあるので、会うのが大変だと感じている。

イ 何度も「またね」とは言うが、実際は会う機会が減ってしまうであろうことを悲しんでいる。

ウ 明るく別れることはできたが、トリとのことで裏切られたと感じ、怒りを抱いている。

エ 春子が中学生になってからはきつと自分たちよりトリを優先するだろうと嫉妬しよとしている。

三 次の①～⑥の四字熟語には誤字が一字ずつあります。正しく全体を書き直しなさい。

- ① 一後一会
- ② 八法美人
- ③ 単当直入
- ④ 前大未聞
- ⑤ 因我応報
- ⑥ 言語道段

四 次の文の―線部が修飾している文節を、それぞれ抜き出しなさい。

- ① すうつと赤とんぼが夕焼け空を飛ぶ。
- ② 広い教室で仲のいい友人と話すのが毎日の日課だ。
- ③ 近所の公園に大きな赤いバラの花が早くも咲いた。
- ④ さっそく今年もバラバラと雪が降って犬がはしゃいでいる。
- ⑤ 眠気覚ましにコーヒ―をいっきに飲んで仕事をすする。